

気になるフィオーレ喜連川人 Vol. 13

次のステージへ。
～人生を切り拓いて
辿り着いたもの



1丁目
レースドール作家
池本 守



30年間作り続けたレースドールは自分の中で到達点にきた。次のステージへ。レースドールとの出会いは運命的だった。偶然、アパートの展示場に並んだ人形を見て衝撃が走った。無意識に触ろうと手を伸ばした。「触らないで！壊れてしまいます！」布製と思った人形は何と磁器製であった。その名のごとく繊細で緻密な作りが焼き物であることに驚き、感動した。そこから天啓を受けたかのように自身の経営する会社を辞め、ファッションデザイナーからレースドール作家へと転身。以降30年かけて作品の見た目だけでなく質や技術の向上を目指し、いかに表現すれば美しく見えるか独学で突きつめてきた。しかし、どんなに作品が評価されても『壊れやすい』という理由で、広く世界へ進出するチャンスが奪われた。悔しい気持ちから「壊れにくい人形を作りたい」という気持ちが強くなった。こうし

て出来上がったのが「浮世絵人形」。今までの作品と大きく異なるのは、その見た目だけではなく型製という点。肌に光沢をつけないマット仕上げは他にない独自の特徴で、池本さんの技術を集結し魂がこもった作品。驚いたのは「これを量産し、多くの人に楽しんでもらいたい。」という言葉。「作家というのは不器用で一人よがり。頼まれても同じものを作れないし、人がどう言うとうと自分がいいと思うものしか作れない。職人は早く、正しく同じものを作る技術を持って通用するものを作りたい。どこをどう改良すれば多くの人が楽しめるものになるのか考えないと、一人よがりですわってしまいます。少しずつ作っていけばいいという考えではなく、なってきた。技術を後世に残す、伝える役割を担おうという。それはもはや一人の作家という枠を超え、日本の文化

を自分なりに構築し、国内にとどまらず世界へと発信しようとしている。「この人形がわたしの手から誰かにバトンタッチされて『メイドイン栃木』として世界に誇れるものになってほしい。そしてこの栃木を元気にしたい！」池本さんから感じる並々ならぬ開拓者精神。自身の人生をも切り拓いてきたから、今までの経験どれをなくしても今の自分に辿り着かない。「こうしたい」という強い想いと、それができるという自信があつて切り拓いてきた経験が全て繋がっている。今この人形を世界に流通させるための物流も考えている。最近ようやく納得のいく梱包が出来上がった。商科大学で学んだ商業の教えもしっかり生かされている。「80歳になられた現在もその精神は衰えることはなく、今この瞬間も未来の自分を開拓している。」

記事：大河原千晶

フィオーレ 前進宣言



Team FIORE構想

2014年最後の発刊となった前月12月号は、一年の総集編として、フィオーレ喜連川に巻き起こったポジティブな変化をまとめて紹介した。本誌「FIORE」は、2015年も引き続き地域ニュースを紹介していくと共に、フィオーレ喜連川の発展の様子を追いかけて、情報発信という形でサポートしていきたい。そんな中、年明け早々さっそく新しいニュースが入ってきた。それはまちの活性化のため、フィオーレ喜連川に拠点を置く企業や団体、店舗など事業者が互いに協力・応援し合い、一つの連合体(チーム)を成すというもの。連合体の名前はシンプルに「Team FIORE」。



その活動の第一弾として、なんと元旦から一週間限定でとちぎテレビでのCM放送が行われた。内容は昨年5月にオープンしたNO NAME CAFEを応援するためのコマーシャル(現在9チャンネルで放送中)。このようなサポート体制を充実させ、新しい店舗などをフィオーレに招致していく上でのPRポイントにしていく

事もTeam FIOREのコンセプトのようだ。まだ具体的な活動のプランは案段階のためここでご紹介することはできないが、着々と準備が進められている。その他にも下水施設問題の進展などフィオーレにとってなお課題は多い。昨年に生まれた大きな流れを止めずに突き進めるための大事な一年が始まった。

*とちぎテレビで放送されたCMイメージ